

本音で語ろう！退院支援と地域連携 報告書

【総括】

本シリーズを通して、「教わる」という一方的な研修会から「話し合う」という双方向の研修会を定着させることができ、かつ、多機関・多職種が一同に会することができる研修会(機会)として一定の評価を得ることができたと考えております。本シリーズを通して明らかになった課題の全てが解決されたわけではなく、まだ解決の途についたばかりではあるが、これからも継続的に開催することで、参加者とともに多職種連携を促進させる変化を起し続けたいと考えています。「継続は力なり」。

「研修会楽しみにしている」、「研修会に参加して連携しやすくなった」という参加者からの声を励みに、ともにより良い研修会を創っていきたくと考えております。これからも継続的に開催していきますので、引き続きよろしく申し上げます。

【経過】

第1回	三団体合同学習会「本音で語ろう！退院支援と地域連携 vol.1」 平成 21 年 12 月 17 日 (金) まなぼっと 705・706 号室 参加者 69 名
第2回	「本音で語ろう！退院支援と地域連携 vol.2～踏み出す一步はみんなの創意」 平成 22 年 5 月 21 日 (金) 労災病院 3 階講堂 参加者 112 名
第3回	「本音で語ろう！退院支援と地域連携 vol.3～輪になって繋ごう！みんなの想い」 平成 22 年 11 月 12 日 (金) 釧路市立高等看護学院体育館 参加者 128 名
第4回	「本音で語ろう！退院支援と地域連携 vol.4～題名のない座談会」 平成 23 年 1 月 19 日 (金) ふたば診療所 参加者 24 名
第5回	「本音で語ろう！退院支援と地域連携 vol.5～連携の明星」 平成 23 年 7 月 1 日 (金) 老人保健施設ケアコートひまわり 参加者 50 名
合計	全5回の研修会を通して、延 383 名の参加を得ることができました。

〈連絡先〉

住所 釧路市堀川町 8 番地 43 号 (ひまわり居宅介護支援事業部)
電話 0154-24-2133 (同上)
メール ccl@wish.ocn.ne.jp
ブログ <http://yonemachi.blog.ocn.ne.jp/ccl/>
発行日 平成 24 年 6 月 29 日 (金)

〈研修班〉

班長 横田 佐佳衣
班員 浅野 洋郎・金森 泰夫・坂本 藍・杉山 力・竹田 匡・田中 ひろみ
平原 普子・藤崎 智也・望月 誠・米澤 結実子



(本音で地域連携のあり方を検討する会)

【はじめに】

「退院支援と地域連携」の現状が、実感としてどうもうまくいっていないことを共有した3つの職能団体(釧路地区介護支援専門員連絡協議会・北海道医療ソーシャルワーカー協会東支部・北海道社会福祉士会釧路地区支部)が共催で企画した研修会が、「本音で語ろう！退院支援と地域連携」であり、本会発足の萌芽でもあります。研修会の企画にあたっては、教える側と教わる側に分けるのではなく、参加者全員で課題や工夫などを“本音で語ろう”を合言葉に、参加しやすい、発言しやすい雰囲気となることを心がけました。その甲斐もあり、第1回目の研修会が潮流となって、第5回までシリーズとして、延べ 397 名を超える参加を得て開催することができました。

本報告書は、全5回の「本音で語ろう！退院支援と地域連携」の成果と課題を総括いたし、関係者の皆様の参考資料として公表させて頂くこととしました。

報告書作成にあたっては、膨大な資料を詳細にまとめる形式をあえて採用せず、誰にでもわかりやすく、また、気軽にお読みいただけるような形式を採用させて頂きました。

内容について、不十分な点もあろうかと存じますがご容赦頂きますとともに、是非とも一読頂ければ幸いです。これからも関係者のみなさまとともに、語り合いを通し、つながり(信頼関係)を大切にしながら釧路における地域連携の文化を創造していきたいと考えております。

【目的】

本シリーズの一貫した目的は、当会だけではなく、研修会に参加される方々とともに、釧路地域における地域連携の課題を共有するところからはじめ、課題の中でもより優先順位の高い課題と低い課題の優劣をつけ、その上で、考えられる解決方法を抽出することにより、日々の実践におけるクライアントへの支援に役立てることを目的に開催いたしました。

また、医療機関や介護保険関係事業所などさまざまな機関で勤務するさまざまな職種と職種のつながりや絆を深めることも副次的な目的として、研修会を開催いたしました。

【成果】

本シリーズでの成果としては、研修会を通して参加者同士の“つながり”や“絆”づくりの契機となり、日々の実践において連携しやすい意識を醸成させるとともに、必要な知識や技術を得たりすることができました。また、同一テーマで参加者同士が話し合う形式の研修を積み重ねたことで、「退院支援と地域連携」に関する課題を多職種で共有することができ、さらに、最も優先順位が高い解決方法として、「情報共有」というキーワードを参加者とともに紡ぎ出しました。また、副次的な成果としては、本会が発足するとともに、多職種連携の調査の実施やCCLシートの開発に至りました。

【課題】

本シリーズの課題としては、同一テーマで連続開催としたことから上記のような成果を得ることができたものの、一方で、研修内容の一部が継続しているため初参加者が参加しづらいということ、また、参加している職種や機関にやや偏りが見られることなどが課題として挙げられます。

多種多様な専門職の参加を得ることができるよう、研修会の内容の充実及び周知の方法を課題として引き続き検討していく必要があります。

(研修会の内容)
 三団体(釧路地区介護支援専門員連絡協議会、北海道社会福祉士会釧路地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー協会東支部釧路ブロック)の合同学習会として、パネルディスカッションとそれを踏まえたグループワークを行った。

(ねらい)
 「それぞれの機関での退院支援の課題」をテーマにグループごとに、
 ①工夫している点 ②苦労している点 ③困っていること ④苦手と思う点 ⑤連携でよかったと思う点 ⑥こうなればもっと支援しやすいあるいは連携しやすいと思う点について意見を出し合う。

(成果)
 ①多くの職種が集まり、意見交流ができた。
 ②釧路の連携について「なんとかしたい!」と思っている人が多いことがわかった

(課題)
 多職種連携について継続して議論していく機会を持つこと

VOL. 1

研修会終了後は懇親会で、コミュニケーション

(研修会の内容)
 前回のテーマを引き継ぎ、本研修会のテーマ課題解決の方法一つとして、「情報の共有化」というキーワードに焦点を絞り話し合うこととした。

また、本テーマのを完結を目指し、前回(vol.3)の研修会参加者に対象者を限定して開催した。

(ねらい)
 これまでの研修会の成果を踏まえ、KJ法を用いて、退院支援と地域連携において、円滑に情報を共有するための具体的方法を整理し明らかにする。


(成果)
 ① 情報を共有するための具体的な手段として、『情報シート』、『ルールづくり』、『IT化』、『共通言語』などの意見が出された。
 ② 「参加する側」から「企画する側」への変化を生むことができた。

(課題)
 ① これまでの研修会に比べ人数は減らず結果となった。
 ② 必要な手段をさらに絞り込むため、同テーマで継続開催となる。

VOL. 4

📎 ウェルカムボード ☺ 人間コピー

VOL.1 終了後、CCL (本音で地域連携のあり方を検討する会) 発足!!



連携の明星

(研修会の内容)
 前回の研修会で出された「情報の共有化に関する具体案」をより具体化させるために、各自必要だと思うキーワードごとにグループに分かれ、具体的なツールを考え企画書を作成し、時間内でプレゼンテーションを行う。

(ねらい)
 ①「情報の共有化」の為に必要な解決方法(具体的なツール)について話し合う。
 ②参加者同士、ゆったりと語らう。
 ③参加者の意欲を高める。

(成果)
 ①研修会で話し合った内容の具現化について、参加者の意思を確認したところ、半数以上の方々が呼びかけに賛同し、今後の大きな可能性を確信することができた。
 ②CCLの活動に参加したいという有志が12名現れた。

(課題)
 「本音で語ろう! 退院支援と地域連携」シリーズは今回をもって終了とし、新たな研修会はどのように進めていけばよいか検討する。

VOL. 5

🏆 トロフィー ☺ エア大縄跳び

シリーズの歩み

📎 アイテム ☺ アイスブレイク

(研修会の内容)
 vol.1のグループワークで参加者が発した多くの「退院支援における課題」をまとめ分析し、5つのサブテーマ、①多職種との情報の共有化、②多職種との信頼関係づくり、③多職種との目標の共有化、④多職種との役割分担、⑤連携に関する業務における時間の確保を設定し、テーマに分かれて話し合い、テーマごとの課題を共有し、解決方法について【個人】【組織】【地域】レベルで検討した。

(ねらい)
 ①参加者に明日からでもできる解決方法を一つでも見つけ持ち帰ってもらう。
 ②退院支援と地域連携における課題と解決方法を参加者全体で共有し、全体で取り組める目標づくりをおこなう。

(成果)
 ①vol.1の課題につづき、解決方法についてもたくさんの意見がでた。
 ②研修会を通じて研修班へ新しいメンバーが加入した。

(課題)
 ①解決策としてでた多くの意見を整理し、具体化していく。
 ②限りある研修時間の中でしっかり話し合いのできる時間設定。

VOL. 2

📎 ウェルカムボード・お品書き ☺ じゃんけん背比べ

前にならなくて良かった! みんなの思い

(研修会の内容)
 前回の研修会で出された「退院支援と地域連携の課題」に対する解決策を5つのサブテーマ毎に絞り込んだ。最も効果が高く、時間がかからない方法を3段階のワークショップから抽出し、さらに、「自身が期待すること」「貢献できること」をそれぞれ個人発表した。

(ねらい)
 具体的な解決方法について、ワークショップを通じて参加者で共有し、各カテゴリーにおける実効性の高い解決方法を明らかにする。

(成果)
 ①解決方法を「各職種がすみやかにコミュニケーションを取る」、「担当者会議」、「医療在宅双方で顔を合わせる機会を増やし積極的に情報交換などの関わりを持つ」、「顔見知りになる」、「入院中にみんなで会議」、「情報交換を密にして、できること・できないことを確認し合う」、「入院中からの情報共有」の7つにまとめることができた。
 ②7つの解決方法に共通するものとして「情報共有」が挙げられる。

(課題)
 ①初めての参加者と経過を共有することが困難であった。
 ②「情報共有」を円滑に効果的に行うための方法の検討が必要。

VOL. 3

📎 暖簾・CCLサイン ☺ ジェスチャーモノマネ